

兵庫県のアトキリゴミムシ類 (2)

森 正人¹⁾

はじめに

前報に引き続き、兵庫県におけるアトキリゴミムシ群 *Truncatipennes* の残りの種について記録を整理しておく。今回は、アトキリゴミムシ亜科 *Lebiinae* の残り、スジバネゴミムシ亜科 *Zuphinae*、ホソゴミムシ亜科 *Dryptinae* およびホソクビゴミムシ科 *Brachinidae* である。記録は文献記録と標本記録に分け、文献記録については記載された記録地名と出典を明記し、地名は原則的に文献記載の地名を転用、重要と思われるものは詳細内容も加えた。標本記録については手許の標本から、原則1産地1例とし、頭数・産地名・データを明記した。筆者以外の採集者は名前を明記し、筆者採集はこれを省略した。上位分類(亜科、族など)については大倉(1985)に概ね準拠し、学名はLöbl・Smetana(2003)に従った。種番号は前報から続けた。

各種解説

31. ハネビロアトキリゴミムシ *Lebia (Nipponolebia) duplex* Bates, 1883

【文献記録】篠山町(岸田剛二ほか; 1975), 篠山町雨石山(林靖彦ほか; 1995), 氷上郡(山本義丸; 1958), 氷ノ山(高橋匡; 1982), 神戸市六甲山(八木剛ほか; 2002), 柏原(吉武啓ほか; 2011), 宝塚市玉瀬, 売布ヶ丘(宝塚市; 1993), 宝塚, 神戸市道場, 川西市笹部, 猪名川町上阿古谷, 猪名川町木間生, 波賀町赤西(初宿成彦; 2012).

【標本記録】1ex, 温泉町扇ノ山, 19-V-1995; 2exs, 波賀町赤西溪谷, 4-V-1987; 3♀, 神戸市淡河, 25-V-2013.

日本では北海道, 本州, 四国, 九州に分布し, 兵庫県内では丘陵地から山地まで広く記録がある。主として広葉樹枝葉上に生息している。次種とよく似ているが, 本種は頭頂部に明瞭な点刻を具え, 前胸背の幅がより広く茶褐色を呈すること, 第4跗節前縁は湾入するだけで明らかな2片状とならない(次種では前縁が深く切れ込んで2片状となる)ことで区別ができる。*Lebia* 属(兵庫県産)では, ♂は中脛節内側の端部付近に1つの切れ込みを具えていることで雌雄の区別ができる。本

種から50番まではアトキリゴミムシ亜科に属する。

32. エゾハネビロアトキリゴミムシ *Lebia (Poecilothais) fusca* Morawitz, 1863

【文献記録】波賀町赤西(初宿成彦; 2012).

【標本記録】1ex, 千種町峰越峠, 6-IX-1995; 1ex, 宍粟市赤西溪谷, 9-VII-2011; 2exs, 養父市氷ノ山国際スキー場, 6-VII-2008.

函館原産。北海道, 本州, 四国, 九州に分布, 兵庫県内ではやや山地よりの傾向を示し, 氷ノ山周辺での記録が多い。前種と同様に広葉樹枝葉上に生息しているが個体数はより少ない。

33. アトグロジュウジアトキリゴミムシ *Lebia (Poecilothais) idea* Bates, 1873

【文献記録】氷ノ山(高橋匡; 1982), 神戸市六甲山(八木剛ほか; 2002), 売布ヶ丘(宝塚市; 1993), 神戸市烏原, 甲東園, 川西市笹部(初宿成彦; 2012).

【標本記録】1ex, 宍粟市赤西溪谷, 5-VII-2009; 1ex, 宍粟市掘, 3-VI-2006; 2exs, 香美町ハチ北高原, 1-VI-2012; 1ex, 御津町揖保川, 7-VII-2003; 1ex, 西宮市すみれ台, 7-V-1994; 1ex, 三原町諭鶴羽山(淡路島), 19-V-2002.

原産地はHigo, Satsuma, Nagasaki。本州, 四国, 九州に分布し, 兵庫県内では平地から山地で記録されている。広葉樹枝葉などに生息しているが, 林床や落葉下で見られることもある。灯火にも飛来する。上翅の斑紋は比較的安定している。

34. ミヤマジュウジアトキリゴミムシ *Lebia (Poecilothais) sylvorum* Bates, 1883

【文献記録】扇ノ山(高橋匡; 1982).

【標本記録】1ex, 宍粟市坂の谷, 4-VII-2010; 56exs, 宍粟市赤西溪谷, 9-VII-2011; 30exs, 宍粟市坂ノ谷, 23-VII-2011; 6exs, 香美町ハチ北高原, 28-VIII-2011.

Higo原産。北海道, 本州, 四国, 九州に分布し, 兵庫県内ではいまのところ, 北中部の山地で記録されている。一般に個体数は少ないが, 氷ノ山周辺では溪流沿い

¹⁾ Masato MORI 環境科学大阪 株式会社

の大径木樹幹のコケ下などに数多く観察された。灯火に飛来することもある。ミヤマジュウジゴミムシは異名。

35. コジュウジアトキリゴミムシ *Lebia (Poecilothais) iolanthe* Bates, 1883

【文献記録】鉢伏山 (川津智是; 1962).

原産地は Ontake, Subashiri. 本州に分布するが希な種類で, 全国的に記録は少ない。県内では, 文献記録の鉢伏山 (=ハチ高原) のほか波賀町坂の谷で採集された情報もあり, 氷ノ山周辺では確実に生息しているようだが, いまだにめぐり会えない。

36. ジュウジアトキリゴミムシ *Lebia (Poecilothais) retrofasciata* Motschulsky, 1864

【文献記録】氷上郡 (岸田剛二ほか; 1975), 篠山町雨石山 (林靖彦ほか; 1995), 氷ノ山 (高橋匡; 1982), 神河町砥峰高原 (八木剛ほか; 2003), 黒田庄町白山 (兵庫昆; 2001), 宝塚市玉瀬, 売布ヶ丘 (宝塚市; 1993), 川西市笹部, 川西市大和 (仲田元亮, 1978), 川西市笹部, 川西市芋生, 川西市大和, 猪名川町内馬場, 猪名川町槻並, 猪名川町木間生, 宝塚市滝ノ平, 神崎郡柄原谷 (初宿成彦; 2012).

【標本記録】1ex, 神戸市淡河, 6-V-2006; 3exs, 神戸市道場, 10-VII-2011.

北海道, 本州, 四国, 九州に分布し, 兵庫県内では平地から山地まで広く記録がある。主として広葉樹枝葉上に生息し個体数も比較的多い。ハムシ幼虫の捕食事例がある。灯火に飛来することもある。上翅の斑紋変異は比較的大きい。ジュウジゴミムシは異名。

37. フタホシアトキリゴミムシ *Lebia (Poecilothais) bifenestrata* Morawitz, 1862

【文献記録】神河町砥峰高原 (八木剛ほか; 2003), 氷上郡 (山本義丸; 1958), 黒田庄町白山 (兵庫昆; 2001), 神戸市六甲山 (八木剛ほか; 2002), 淡路先山 (堀田久; 1976), 宝塚市玉瀬 (宝塚市; 1993), 川西市笹部, 川西市大和 (仲田元亮, 1978), 川西市笹部, 川西市芋生, 川西市東畦野, 西宮市船坂, 篠山町雨石山, 猪名川町木間生, 波賀町赤西, 氷ノ山 (初宿成彦; 2012).

【標本記録】1ex, 香住町小原, 10-VII-2001; 2exs, 宍粟市赤西, 14-VI-2009; 1ex, 養父市杉ヶ沢, 1-VI-2012; 3exs, 養父市氷ノ山スキー場, 6-VII-2008; 3exs, 香美町ハチ北高原, 5-V-2012; 1ex, 朝来市生野白口, 23-VII-2007; 2exs, 神河町砥峰高原, 6-VI-2009; 3exs, 神河町峰山高原, 26-V-2012; 2exs, 神戸市道場, 25-V-2013; 3exs, 神戸市藍那, 12-VII-2002; 2exs, 神戸市太山寺, 25-V-2013; 2exs, 姫路市青山, 26-V-2012; 1ex, 洲本市先山 (淡路島), 1-VIII-2009.

シベリア原産で, 日本では北海道, 本州, 四国, 九

州, 南西諸島に分布し, 兵庫県内では平地から山地まで広く見られ個体数も多い。広葉樹枝葉上や花上などに生息している。上翅中央前の淡色斑紋は大きく広がるものから, これが消失し全体が黒色となるものまで変異が大い。フタホシヒメゴミムシ, フタホシヒメアトキリゴミムシは異名。

38. ホシハネビロアトキリゴミムシ *Lebia (Poecilothais) calycophora* Schmidt-Göbel, 1846

【文献記録】篠山町雨石山 (林靖彦ほか; 1995), 氷上郡 (山本義丸; 1958), 洲本市先山 (堀田久; 1976), 三原郡論鶴羽山ほか (高橋寿郎; 1998), 宝塚市玉瀬, 切畑字長尾山 (宝塚市; 1993), 川西市笹部, 川西市大和 (仲田元亮, 1978), 宝塚市, 川西市笹部, 川西市大和, 猪名川町杉生新田, 西宮武庫川, 波賀町音水, 淡路北淡町, 東浦町河内 (初宿成彦; 2012).

【標本記録】3exs, 神戸市藍那, 12-VII-2002; 1♀, 神戸市淡河, 25-V-2013.

本州, 四国, 九州, 南西諸島に分布し, 兵庫県内では平地から山地まで広く見られ個体数も多い。広葉樹枝葉上や花上などに生息している。ヒノキ樹皮下での越冬事例がある。上翅合部の黒色斑紋は常にあるが, 左右の黒色紋は消失することがある。♂の腹部末端節中央に切れ込みがある。原産地はビルマ。ヒメアトキリゴミムシは異名。

39. キクビアオアトキリゴミムシ *Lachnolebia cribricollis* (Morawitz, 1862)

【文献記録】篠山町 (岸田剛二ほか; 1975), 出石町ほか (高橋匡; 1982), 多可郡中町 (松尾隆人; 2003), 氷上郡 (山本義丸; 1958), 売布ヶ丘 (宝塚市; 1993), 川西市笹部, 川西市大和 (仲田元亮, 1978), 甲東園, 神戸市御影, 住吉, 川西市笹部, 川西市大和, 猪名川町, 加古川 (初宿成彦; 2012).

【標本記録】1ex, 香美町小代区大谷, 25-VII-2012, 伊藤主計; 2exs, 八鹿町円山川, 24-IX-2011; 3exs, 養父市氷ノ山スキー場, 24-VII-2004; 2exs, 御津町掛保川, 7-VII-2003; 2exs, 小野市加古川, 2-X-2011; 1ex, 稲美町, 10-VI-2012; 1ex, 加西市段下町, 16-X-1999; 3exs, 赤穂市北野千種川, 4-VII-2011; 1ex, 宝塚市玉瀬, 29-X-2011; 7exs, 伊丹市猪名川, 17-XI-201; 3exs, 神戸市藤原台, 4-VII-1987; 1ex, 神戸市道場, 9-IV-2004.

東シベリアが原産で, 日本では北海道, 本州, 四国, 九州, 南西諸島に分布する。兵庫県内では平地で見られることが多い。地表性種で河川敷などの石下や落葉下で比較的多く見られ, 冬季は土中や朽ち木中で成虫越冬する。灯火にも飛来する。キクビアオゴミムシは異名。

40. ミズギワアトキリゴミムシ *Demetrius (Demetrius) marginicollis* Bates, 1883

【文献記録】神戸市六甲山 (八木剛ほか; 2002), 神河町砥峰高原 (八木剛ほか; 2003), 猪名川町大野山 (初宿成彦; 2012).

【標本記録】6exs, 八鹿町円山川, 23-V-2011; 6exs, 香美町ハチ北高原, 21-VIII-2012; 3exs, 豊岡市岩井, 12-X-2011; 1ex, 豊岡市新堂, 18-V-2011; 8exs, 姫路市余部揖保川, 16-X-2011; 1ex, 三田市羽東川, 6-X-2000; 1ex, 宝塚市羽東川, 15-II-2009; 9exs, 宝塚市玉瀬, 29-X-2011; 2exs, 伊丹市猪名川, 17-XI-2011; 2exs, 神戸市道場, 9-VIII-2002; 26exs, 神戸市藍那, 6-X-2011.

北海道, 本州, 九州に分布. 箱根原産. 名前のおり河川や池沼など水辺周辺のヨシなどの植物体に生息し, 普段は葉鞘間に潜んでいる. 生息地での個体数が多いが, ふつう見かける機会は少ない. 灯火にも飛来する.

41. イクビホソアトキリゴミムシ *Dromius (Dromius) quadraticollis* Morawitz, 1862

【文献記録】氷上郡 (岸田剛二ほか; 1975), 氷ノ山 (高橋匡; 1982), 川西市笹部 (仲田元亮, 1978), 有馬, 甲東園, 神戸市垂水, 宝塚, 川西市笹部 (初宿成彦; 2012).

【標本記録】2exs, 香美町ハチ北高原, 5-V-2011; 23exs, 御津町揖保川 (アキニレ樹皮下), 21-XI-2010; 2♂, 篠山市後川新田 500m, 15-IV-2012; 1ex, 神戸市道場, 18-VII-2002; 1ex, 神戸市本山寺, 4-III-2006.

横浜原産で, 北海道, 本州, 四国, 九州に分布. 各種植物体上に生息する. 越冬は成虫態でケヤキやアキニレ, アカガシなどの樹皮下で比較的多く見られる. *Dromius* 属は県内にも数種が分布しているが, 斑紋などの特徴に乏しく, お互によく似ている. 本種以下の3種は前胸背の側縁中央前と後角付近の2ヶ所に刺毛を具えていることで, ホソアトキリやベーツホソアトキリとは区別ができる. イクビアトキリゴミムシは異名.

42. キタホソアトキリゴミムシ *Dromius (Dromius) nipponicus* Habu, 1983

【標本記録】1♂2♀, 篠山市後川新田 500m, 15-IV-2012.

帯広原産. 北海道, 本州に分布. 比較的希な種で, 兵庫県では初記録と思われる. 篠山市では尾根筋のアカガシ樹皮下で越冬中の個体が確認された. 本種はイクビホソアトキリゴミムシにやや似ているが少し小型で, 肢の色や♂交尾器先端部が広がることで区別が出来る.

43. フトヒゲホソアトキリゴミムシ *Dromius (Dromius) crassipalpis* Bates, 1883

【文献記録】篠山町雨石山 (林靖彦ほか; 1995).

【標本記録】1♂, 篠山市後川新田 500m, 15-IV-2012.

原産地は Oyama in Sagami. 本州に分布. 本種も希な種で, 篠山市では尾根筋のアカガシ樹皮下で前種やイクビホソアトキリゴミムシとともに, 越冬中の個体が確

認された. 本種は *Dromius* 属としては少し変わっていて, 前胸背側縁部の平圧部が少し広がり, 一見ある種のヒラタゴミムシ類のような感じを受ける.

44. ホソアトキリゴミムシ *Dromius (Klepterus) prolixus* Bates, 1883

【文献記録】氷上郡 (岸田剛二ほか; 1975), 氷ノ山 (高橋匡; 1982), 神河町砥峰高原 (八木剛ほか; 2003), 篠ヶ峰 (吉武ほか; 2011), 宝塚市玉瀬 (宝塚市; 1993), 川西市笹部, 川西市大和 (仲田元亮, 1978), 雪彦山, 美方町 (初宿成彦; 2012).

【標本記録】2exs, 香美町ハチ北高原, 28-VII-2011; 2exs, 宍粟市音水溪谷, 19-VIII-2010; 3exs, 養父市氷ノ山スキー場, 6-VII-2008; 1ex, 神河町砥峰, 10-IV-2010; 4exs, 西宮市武庫川, 13-VI-2011; 2exs, 三田市小柿, 30-VII-2005.

原産地は Junsai, Kawachi, Nikko. 北海道, 本州, 四国, 九州に分布. 活動期は各種植物体上に生息し灯火にも飛来する. 越冬態は成虫でケヤキやアキニレ, アカガシなどの樹皮下や隙間に潜る. 個体数が多い. 本種と次種は前胸背後角付近の刺毛を具えるが, 側縁中央前の刺毛を欠く.

45. ベーツホソアトキリゴミムシ *Dromius (Dromius) batesi* Habu, 1958

【文献記録】篠山町雨石山 (林靖彦ほか; 1995), 扇ノ山 (高橋匡; 1982), 神河町砥峰高原 (八木剛ほか; 2003).

【標本記録】1ex, 養父市杉ヶ沢, 1-VI-2012; 1ex, 養父市氷ノ山スキー場, 14-VI-2008; 3exs, 神河町砥峰, 9-VI-2007; 1ex, 川西市一庫, 27-V-2003; 1ex, 三田市香下, 12-V-1996; 1♂, 篠山市後川新田 500m, 15-IV-2012; 3exs, 神戸市藍那, 18-IX-2002; 2exs, 宝塚市大原野, 4-V-2006; 3exs, 西宮市武田尾, 13-VI-2010, 伊藤主計; 2exs, 淡路洲本市 (淡路島), 30-V-2010.

北海道, 本州, 四国, 九州に分布. 活動期は各種植物体上に生息し, 灯火にも飛来する. 越冬態は成虫でケヤキやアキニレ, アカガシなどの樹皮下や隙間に潜る. 個体数は比較的多い. 前種とは前胸背の形状などが異なる.

46. キイロアトキリゴミムシ *Philorhizus optimus* (Bates, 1873)

【文献記録】栃原 (初宿成彦; 2012).

【標本記録】1ex, 神戸市道場, 5-X-1997.

北海道, 本州, 四国, 九州に分布するが希な種類である. 生息環境はよくわからない. 大阪府岬町から材採したエノキ太枝から出てきたことがあり, 成虫で樹木の隙間などに越冬していると考えられる. ケヤキ樹皮下での観察例もある. トガリホソアトキリゴミムシは異名.

47. イマイチビアトキリゴミムシ *Microlestes imaii* Habu, 1972
 【文献記録】Kobe(Habu; 1983).
 【標本記録】1ex, 南淡町(淡路島), 12-VIII-1989.
 原産地は大阪信太山. 本州と九州に分布する. 希な種類で, 生息環境がよくわからない.
48. チビアトキリゴミムシ *Microlestes minutulus* (Goeze, 1777)
 【文献記録】竹野(高橋匡; 1982).
 Europe 原産. 北海道と本州に分布する. 北方系の種類で, 私は県内で見たことがない. 画像は北海道産.
49. スジミズアトキリゴミムシ *Apristus grandis* Andrews, 1937
 【文献記録】篠山町(岸田剛二ほか; 1975), 多可郡中町(松尾隆人; 2003), 洲本市由良, 明石川河口, 西宮市武庫川河口(河上康子ほか; 2000), 宝塚市弥生町(宝塚市; 1993), 川西市笹部, 川西市大和(仲田元亮, 1978), 川西市笹部, 川西市西畦野, 川西市大和, 西宮市甲山, 西宮市御前浜, 西宮市武田尾, 明石市明石川, 波賀町八幡神社, 淡路由良海岸, 南淡町吹上浜(初宿成彦; 2012).
 【標本記録】5exs, 加古川市加古川, 6-X-2003; 9exs, 神戸市道場, 9-IV-2005; 1ex, 南淡町吹上浜(淡路島), 14-X-2001; 1ex, 三原町論鶴羽山(淡路島), 19-V-2001.
 北海道, 本州, 四国, 九州に分布. 河川敷の砂地や砂礫地など乾燥した環境で多く見られ, 日中さかんに活動している. 一見, ある種のミズギワゴミムシ類に似ている. 個体数は大変多い.
50. チビミズアトキリゴミムシ *Apristus cuprascens* Bates, 1873
 【文献記録】西宮市甲子園浜(河上康子ほか; 2000)
 【標本記録】2exs, 加古川市加古川, 6-X-2003; 2exs, 神戸市道場, 9-IV-2005.
 Hiogo 原産. 北海道, 本州, 四国, 九州に分布. 前種とともに, 河川敷などの乾燥した環境で見られ, 前種よりもより細かい砂地を好むようである.
51. クビボソゴミムシ *Galerita orientalis* (Schmidt-Göbel, 1846)
 【文献記録】氷上郡(岸田剛二ほか; 1975), 洲本市安乎町(堀田久; 1959), 宝塚市切畑字長尾山(宝塚市; 1993), 川西市笹部, 川西市大和(仲田元亮, 1978), 甲東園, 川西市笹部, 川西市大和, 猪名川町, 佐用町大撫山, 淡路北淡町, 淡路土生(初宿成彦; 2012).
 【標本記録】2exs, 豊岡市神鍋, 28-VIII-2011; 1ex, 赤穂市千種川, 4-VII-2011; 2exs, 出石町, 6-VIII-1992; 27exs, 加東市下久米, 25-XI-2012; 2exs, 加西市段下町 20-Jan. 1995; 3exs, 神戸市道場, 14-IX-1987; 1ex, 三原町論鶴羽山(淡路島), 17-VI-2001.
 原産地は Nagasaki, Yokohama. 本州, 四国, 九州に分布. 水辺や乾燥地, 樹林などいろんな環境で見られ, また個体数も多い. 冬季は乾燥した崖などにもよく入っている. オオクビボソゴミムシ, クビボソゴミムシは異名. 本種と次種はスジバネゴミムシ亜科に属している.
52. フタホシスジバネゴミムシ *Planetes (Planetes) puncticeps puncticeps* Andrews, 1919
 【文献記録】篠山町(岸田剛二ほか; 1975), 氷上郡(山本義丸; 1958), 洲本市安乎町(堀田久; 1959), 出石町(高橋匡; 1982), 宝塚市玉瀬, 安倉(宝塚市; 1993), 川西市笹部(仲田元亮, 1978), 神戸市垂水, 甲東園, 川西市笹部, 宝塚市清荒神, 淡路町岩屋(初宿成彦; 2012).
 【標本記録】1ex, 八鹿町円山川, 19-VI-2011; 5exs, 加東市下久米, 25-XI-2012; 3exs, 温泉町塩山, 28-IX-1997; 10exs, 佐用町大撫山, 25-XII-1988; 1ex, 小野市加古川, 2-X-2011; 1ex, 姫路市書写山, 27-IV-1999; 3exs, 神戸市道場, 23-XI-2000; 1ex, 三原町論鶴羽山(淡路島), 30-X-1999.
 原産地は Nagasaki, Yokohama, Tsushima. 本州, 四国, 九州, 南西諸島に分布. 前種と同じく, いろんな環境に出現する. 冬季はガケなどの土中に越冬し, 乾燥したガケにも入る. フタホシヒラタゴミムシは異名.
53. アオヘリホソゴミムシ *Drypta (Drypta) japonica* Bates, 1873
 【文献記録】氷上郡(岸田剛二ほか; 1975), 豊岡市(高橋匡; 1982), 宝塚市玉瀬(宝塚市; 1993), 明石 Matsue 海岸, 加古川河口, 赤穂市千種川河口(初宿成彦; 2012).
 【標本記録】3exs, 八鹿町円山川, 24-IX-2011; 2exs, 赤穂市千種川, 4-VII-2011; 4exs, 三木市美囊川, 2-IV-2000; 67exs, 加古川市上荘町, 4-JAN. 2009; 1ex, 小野市加古川, 2-X-2011; 2exs, 三田市羽束川, 6-X-2000; 3exs, 神戸市道場, 26-VI-1991; 1ex, 神戸市藍那, 10-X-2011.
 原産地は大阪. 本州, 四国, 九州に分布. 典型的な「河川性種」で水辺周辺のヨシや水生植物体などで多く見られる. ヒメトビウカの幼虫食との情報がある. 冬季は水辺周辺の崖などに越冬し, 時に集団となる. 活動期には灯火にも来する飛来する. 本種はホソゴミムシ亜科に属している.
54. ミイデラゴミムシ *Pheropsophus (Stenaptinus) jessoensis* Morawitz, 1862
 【文献記録】篠山町(岸田剛二ほか; 1975), 氷上郡(山本義丸; 1958), 洲本市安乎町(高橋寿郎; 1998), 家島本島(上田尚志; 1981), 豊岡市(高橋匡; 1982), 西脇市津万の川原(兵庫匡;

2001), 宝塚市売布ヶ丘, 境野 (宝塚市; 1993), 川西市笹部, 川西市大和, 川西市見野 (仲田元亮, 1978), 甲東園, 川西市笹部, 川西市見野, 川西市大和, 猪名川町上阿古谷, 加古川河口, 佐用町大撫山 (初宿成彦; 2012).

【標本記録】2exs, 赤穂市千種川, 4-VII-2011; 2exs, 上郡町千種川, 10-V-2003; 2exs, 三木市美囊川, 13-III-1998; 3exs, 小野市権現ダム, 31-V-1992; 1ex, 加古川市上荘町, 3-I-2009; 1ex, 神戸市藤原台, 14-VI-1987; 2exs, 神戸市道場, 16-IV-1993.

原産地は函館. 北海道, 本州, 四国, 九州, 南西諸島に分布. 水田周辺草地など水辺環境で多く見られる. 本種の幼虫はケラのトンネル内に侵入して, その卵を摂食することが良く知られている (例えば, 井上; 1966). 灯火にも飛来する. 本種以下はホソクビゴミムシ科に属し, この科の種類は過酸化水素とヒドロキノンを反応させてガスを噴射することで有名である (ヘッピームシ). ミイデラハンメウ, ミイデラコウヤは異名.

55. オオホソクビゴミムシ *Brachinus scotomedes* Redtenbacher, 1867

【文献記録】篠山町 (岸田剛二ほか; 1975), 氷上郡 (山本義丸; 1958), 洲本市先山 (堀田久; 1976, 1959), 家島本島 (上田尚志; 1981), 出石町 (高橋匡; 1982), 宝塚市香合新田 (宝塚市; 1993), 川西市横地, 川西市大和 (仲田元亮, 1978), 川西市笹部, 川西市横地, 川西市大和, 甲東園, 猪名川町内馬場, 南淡町吹上浜 (初宿成彦; 2012)

【標本記録】1ex, 香住町小原, 10-VII-2001; 3exs, 養父市氷ノ山スキー場, 14-VI-2008; 1ex, 八千代町笠形山, 24-VIII-2002; 1ex, 大河内町坂の辻, 26-VII-1999; 3exs, 出石町, 6-VIII-1992; 1ex, 夢前町坪, 3-IX-1997; 2exs, 加東市下久米, 25-XI-2012; 1ex, 洲本市柏原山 (淡路島), 10-X-2004; 1ex, 三原町諭鶴羽山 (淡路), 17-VI-2001; 1ex, 家島本島, 19-VIII-1989.

中国原産. 北海道, 本州, 四国, 九州に分布. 主に樹林環境に生息し, 時に河川敷でも見られる. 個体数は一般に多く, 冬季は乾燥した崖などでも越冬している.

56. コホソクビゴミムシ *Brachinus stenoderus* Bates, 1873

【文献記録】篠山町 (岸田剛二ほか; 1975), 氷上郡 (山本義丸; 1958), 出石町 (高橋匡; 1982), 西宮市武庫川 (吉武啓ほか; 2011), 宝塚市玉瀬 (宝塚市; 1993), 川西市見野 (仲田元亮, 1978), 甲東園, 神戸市押部谷, 猪名川, 宝塚市武田尾, 神崎町笠形山 (初宿成彦; 2012).

【標本記録】香住町小原, 10-VIII-2001; 18exs, 宍粟市赤西溪谷, 20-IX-1987; 6exs, 宍粟市音水溪谷, 2-V-1994; 3exs, 香美町ハチ北高原, 28-VIII-2011; 2exs, 生野町段ヶ峰, 14-IV-2001; 8exs, 神河町千町峠, 3-V-2008; 1ex, 神河町峰山高原, 27-X-2007; ; 9exs, 神戸市道場, 16-IV-1993.

原産地は Nagasaki, Kawachi. 北海道, 本州, 四国, 九州に分布. 本種は典型的な「河川性種」で, 比較的大きな河川下流部から上流部にかけて広範な水辺の砂礫間に生息する. 個体による大きさや色彩の変異が多く, 上翅の色彩は暗紫から暗青となる. 時に暗緑色となり, アオバネホソクビゴミムシと間違われることがあるが, 本種の方が頭部や前胸背が細く, 上翅隆条がより隆まることなどで区別ができる. なお, 仲田 (1978) が記録したアトマルホソクビゴミムシ *Brachinus chuji* (川西市大和) は, 本種のシノニムとされている.

57. ヒメホソクビゴミムシ *Brachinus incomptus* Bates, 1873

【文献記録】氷上郡 (岸田剛二ほか; 1975), 川西市大和, 川西市見野 (初宿成彦; 2012).

【標本記録】1ex, 加古川市加古川, 4-IV-1993; 1ex, 赤穂市千種川, 9-XII-2000; 1ex, 三木市美囊川, 2-IV-2000; 1ex, 神戸市道場, 13-VI-1992; 1ex, 神戸市藤原台, 13-VII-1987.

原産地は Hiogo, Nagasaki. 本州, 九州に分布するが一般に個体数は少ない. 灯火で得られることがあるが, 生息環境が良く把握できていない. 河川や水辺に依存する種類ではなさそうである. 前種に比べて股が短く, 前胸背がより広い, 上翅色彩も暗褐色で比較的安定していることで区別はしやすい.

58. アオバネホソクビゴミムシ *Brachinus aeneicostis* Bates, 1883

【文献記録】武庫 (初宿成彦; 2012).

原産地は京都小椋池. 北海道, 本州, 四国に分布するが少ない. 沼沢地を好み, 河川周辺で見られることもあるが, *B. stenoderus* のように水辺の砂礫間にいることはない. 冬季には土中で越冬し, 水辺を少し離れた赤土の崖で多くの個体を見たことがある (岡山県院ノ庄). 兵庫県では未見. コホソクビゴミムシにやや似るが, 上翅は常に緑色をおび, 前胸背板の点刻と細毛はより密, 側縁の中央部に目立たない 1 刺毛を具えることで区別ができる.

59. セグロホソクビゴミムシ *Brachinus nigradorsis* Nakane, 1962

【文献記録】扇ノ山 (高橋匡; 1982).

【標本記録】1ex, 波賀町掘, 26-VI-1999.

原産地は Mt. Jonen. 本州, 四国に分布. 山地の溪流附近や源流部などに限って見られる. 溪流付近のガレ場では, 山地性ナガゴミムシやメクラチビゴミムシと混じって掘り出されることがあり, 行動はきわめて素早い.

兵庫県から 59 種のアトキリゴミムシ類等の記録を整

理し報告した。ちなみに、近隣の自治体で発行されている目録での記録種数をみると、大阪府(2000)では44種、京都府(2002)は56種であった。また、同じ中国山地つながりの岡山県(2009)では58種とある。従って、兵庫県のこのグループに関しては、解明が比較的進んでいると評価できる。

今後、新たに記録が出そうな種類としては、ブロンズクビナガゴミムシまたはその近縁種(岡山県で記録がある)、ナガサキクビナガゴミムシ(広島県で記録があり、和歌山県産の標本がある)、ナカグロキバネクビナガゴミムシ(滋賀県で情報がある)、クロズジュウジアトキリゴミムシ(鳥取県大山産の標本が手許にある)、インノシマチビアトキリゴミムシ(瀬戸内海の島で生息の可能性がある)、コルリアトキリゴミムシ(近隣の複数自治体では記録がある)などがあり、多少とも追加が期待できそうである。

県内記録の少ないものとしては、クロモンヒラナガ、ダイミョウアトキリ、ヒメキノコ、キボシアトキリ、アリスアトキリ、コアオアトキリ、フタツメ、クロサヒラアトキリ、コジュウジアトキリ、キタホソアトキリ、フトヒゲホソアトキリ、キイロアトキリ、イマイチビアトキリ、チビアトキリ、アオバネホソクビ、セグロホソクビ(以上、ゴミムシを省略)などで、確認機会があれば追加記録や報告を是非お願いしたい。また、アトキリゴミムシ類には特定のハムシ幼虫やチョウ目幼虫などの狭食性を示すものが知られており、採集時または観察時には食餌や観察された植物種など生態情報の視点にも併せて留意して頂きたい。最後に、県内産の標本を頂いた伊藤主計さんに感謝申し上げる。

参考文献

Bates, H. W., 1873. On the Geodephagos Coleoptera of Japan. Trans. Ent. Spc. London, PartII, 219-322.
 河上康子・稲畑憲昭, 2000. 大阪湾沿岸地域における海浜・河口汽水域の地表性甲虫調査. 関西甲虫談話会資料第16号: 29pp.
 川津智是, 1962. コジュウジアトキリゴミムシの採集記録. 昆虫学評論, 14(2): 34.
 岸田剛二・辻啓介, 1975. 兵庫県多紀郡篠山町附近の歩行虫. きべりはむし, 4(1/2): 16-25.
 Kirschenhofer, E. 2006. Neue Arten der Gattung Parena Motschulsky aus Japan, China und Indonesien (Sulawesi). Mitt. internat. entomol. Band31, Heft3/4: 87-103.
 黒沢良彦, 1992. チャドクガの幼虫を補食するゴミムシ. 甲虫ニュース, (100): 23.
 京都府, 2002. 京都府自然環境目録.

Habu, A., 1967. Carabidae *Truncatipennes* group (Insecta: Coleoptera). Fauna Japonica.
 Habu, A., 1983. Revised and supplementary notes on and Description of the *Truncatipennes* group of Japan (III). 昆虫学評論, 38(2): 105-146.
 土生昶申, 1958. ウンカを食べるゴミムシ. KONTYU, 126: 160.
 土生昶申・貞永仁恵, 1967. オオヨツアナアトキリゴミムシの幼虫の記載ならびに生活史に関する若干の観察. Kontyu, 34(4).
 林靖彦ほか, 1995. 1989年度、雨石山に於ける甲虫相調査報告書. KASUGA, 11: 3-7.
 堀繁久, 2008. 森を飛ぶゴミムシと這うゴミムシ. 昆虫と自然, 43(11): 15-19.
 堀田久, 1959. 淡路島産甲虫類目録(2). 兵庫生物, 3(5)376-378.
 堀田久, 1976. 先山の昆虫相(1). PARNASSIUS, 16: 11-32.
 兵庫昆虫同好会事務局, 2001. 多可郡の甲虫相. きべりはむし, 29(1): 10-27.
 福貴正三, 1935. 大阪附近歩行虫採集案内. 昆虫界, 3(13): 14-18.
 藤江隼平ほか, 2011. 佐用町昆虫館周辺の昆虫相. きべりはむし, 33(2): 4-20.
 井上寿, 1966. ミイデラゴミムシの生活史. 昆虫と自然, (9): 18.
 Löbl・Smetana, 2003. Catalogue of Palaearctic Coleoptera. Apollo Books.
 仲田元亮, 1978. 能勢の昆虫(I).
 西田光康, 2000. 西日本のクビナガゴミムシ属 *Odacantha* について. 北九州の昆虫, 47(2): 139-140.
 松尾隆人, 2003. 多可郡中町の自宅灯火で得た甲虫. きべりはむし, 31(1): 48-51.
 森正人, 1997. アリスアトキリゴミムシの生態に関する一知見. ねじればね, 76: 8-9.
 森正人, 2006. 不思議の国のアリスアトキリゴミムシ. NUE, 17: 8-10.
 森正人, 2012. クロモンヒラナガゴミムシ, 兵庫県の記録. きべりはむし, 34(2): 4-6.
 森正人・古巻進, 2012. アトキリゴミムシ類の生態に関する覚書き. さやばね NS, 6: 38-40.
 本藤勝, 1984. クワゴマダラヒトリの捕食者オオヨツアナアトキリゴミムシの捕食戦略: 餌密度に対する反応および摂食量と成長量の関係, 日本生態学会誌, (34).
 岡山県, 2009. 岡山県野生生物目録.
 大倉正文, 1985. アトキリゴミムシ. 原色日本甲虫図鑑

- (II), 保育社: 514pp.
大阪府, 2000. 大阪府野生生物目録.
関公一, 1934. 御影町附近産の甲虫目録. 昆虫界, II(7): 41-43.
新家勝, 1988. 宝塚大橋の甲虫 (その 1). きべりはむし, 16(1): 17-19.
初宿成彦, 2012. 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫類目録 (2). 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録, (44): 5-170.
高橋匡, 1982. 但馬地方昆虫目録 (予報第 7 報). IRATSUME, 6: 57-76.
高橋寿郎, 1998. 淡路島産甲虫目録 (1). PARNASSIUS, 47: 1-9.
宝塚市, 1993. 宝塚の昆虫 II.
田尾美野留, 1984. 兵庫県におけるクロサヒラタアトキリゴミムシの記録. 月刊むし, (161): 39.
徳平拓朗ほか, 2010. 神戸市北区藍那で採集された貴重な昆虫. きべりはむし, 32(2): 15-17.
豊田浩二, 2000a. アリスアトキリゴミムシとカワラケアリの関連について. 甲虫ニュース (127/128): 11-13.
豊田浩二, 2000b. アリスアトキリゴミムシの生態的知見 (追補). 甲虫ニュース (131): 16-17.
山本義丸, 1958. 兵庫県氷上郡昆虫目録, 氷上の自然第 3 集. 兵庫県立柏原高等学校生物教室.
吉武啓・栗原隆・吉松慎一・中谷至伸・安田耕司, 2011. 研究資料農業環境技術研究所所蔵の土生永申コレクション (昆虫綱: コウチュウ目: オサムシ科) 標本目録. 農業環境技術研究所研究報告, (28).
八木剛ほか, 2002. 六甲山のブナ林とその周辺の昆虫相. きべりはむし, 30(1): 1-45.
八木剛ほか, 2003. 砥峰高原の昆虫相. きべりはむし, 31(1): 1-9.
上田尚志, 1981. 家島群島の昆虫 (2). きべりはむし, 9(1): 9-10.



31. ハネヒロアトクリ
ゴミムシ



32. エゾハネヒロアトクリ
ゴミムシ



33. アトグロジュウジ
アトクリゴミムシ



34. ミヤマジュウジアトクリ
ゴミムシ



36. ジュウジアトクリ
ゴミムシ



37. フタホシアトクリ
ゴミムシ



38. ホシハネヒロアトクリ
ゴミムシ



39. キオビアオアトクリ
ゴミムシ



40. ミズギワアトクリ
ゴミムシ



41. イクビホソアトクリ
ゴミムシ



42. キタホソアトクリ
ゴミムシ



43. フトヒゲホソアトクリ
ゴミムシ



44. ホソアトクリ
ゴミムシ



45. ベーツホソアトクリ
ゴミムシ



46. キイロアトクリ
ゴミムシ



47. イマイチビアトキリ
ゴミムシ



48. チビアトキリ
ゴミムシ



49. スジミズアトキリ
ゴミムシ



50. チビミズアトキリ
ゴミムシ



51. クビボンゴミムシ



52. フタホシスジバネ
ゴミムシ



53. アオヘリホン
ゴミムシ



54. ミイデラゴミムシ



55. オオホソクビ
ゴミムシ



56. コホソクビゴミムシ



57. ヒメホソクビ
ゴミムシ



58. アオバネホソクビ
ゴミムシ



59. セグロホソクビ
ゴミムシ